

京都帝國大學天文部だより

去る三月、新城博士を總長と送り出し、山本上島中村稻葉諸氏を日蝕地へ送り出した天文學教室は一時非常に淋しかつたが、四月に入つて七人の新入學生があり、五月には新たに百濟理學士が助教授として來任されたので多少賑はしくなり、六月初には日蝕地から歸朝され、七月一日には山本博士夫妻が歸朝されたので、之れで又元の賑やかさに歸つた。殊に日蝕觀測は成功であつたので、景氣が好い。

此の騒ぎの中に、教室の増築工事が終つて圖書室や講義室や教官室事務室等の新しいのが出來、又、花山の天文臺新築工事も九分通り出來た。此の新天文臺は七月末に營繕課からの引繼ぎを受け、八九兩月中に觀測器械などを教室から悉く山へ運搬し、直ぐに据へ付け、來る十月中旬の吉日を以つて盛んなる落成式が擧げられる段取りである。従つて此の夏は、山本、中村、渡邊等の諸氏其の他の人々も休暇といふものは全く無い。マア、總ての仕事が濟んで、ゆつくり落ち付いた研究氣分になるのは年末か、或は來年の初めにもなるかも知れない。

今後、天文部は「教室」と「天文臺」と二つに分かれる。教室は學生教育のため、天文臺は觀測や研究のためである。従つて、此の兩方にある建築物も、今後は其れ其れ下の如く呼ばれることになる。

A. 「天文學教室」

1. 「北館」 2. 「南館」 3. 「實驗室」
4. 「子午儀室」 5. 「分教室」 6. 「使丁室」

B. 「花山天文臺」

1. 「本館」 2. 「別館」 3. 「太陽館」
 4. 「記念館」 5. 「子午線館」
-